

ここが知りたい!新規制基準 Q & A

Q 浸水を防ぐために、原子力発電所ではどのような対策が進められているの?



A 安全上重要な機器の機能を維持できるよう、防潮堤や防潮壁の設置、建屋の水密化などが進められています。

東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故では、津波で安全上重要な設備が浸水し、原子炉を冷やす機能が失われました。各事業者では巨大な津波が発生しても原子炉を冷温停止できるよう、さまざまな浸水防止対策を進めています。

敷地の高さなどに応じて防潮堤を設置したり、建屋の入り口を水密扉に取り替えるなどの対策がとられています。また、トンネルで海につながっている海水取水ポンプなどから水が溢れることを防ぐため、周囲に防潮壁を設置するなどの取り組みが進められています。



防潮堤の設置



水密扉の設置

写真提供: 電気事業連合会